

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2021年12月14日

JAMA Patient Page: 新型コロナワクチンと妊娠

【松崎雑感】

アメリカ医師会雑誌の一般向け情報の紹介です。

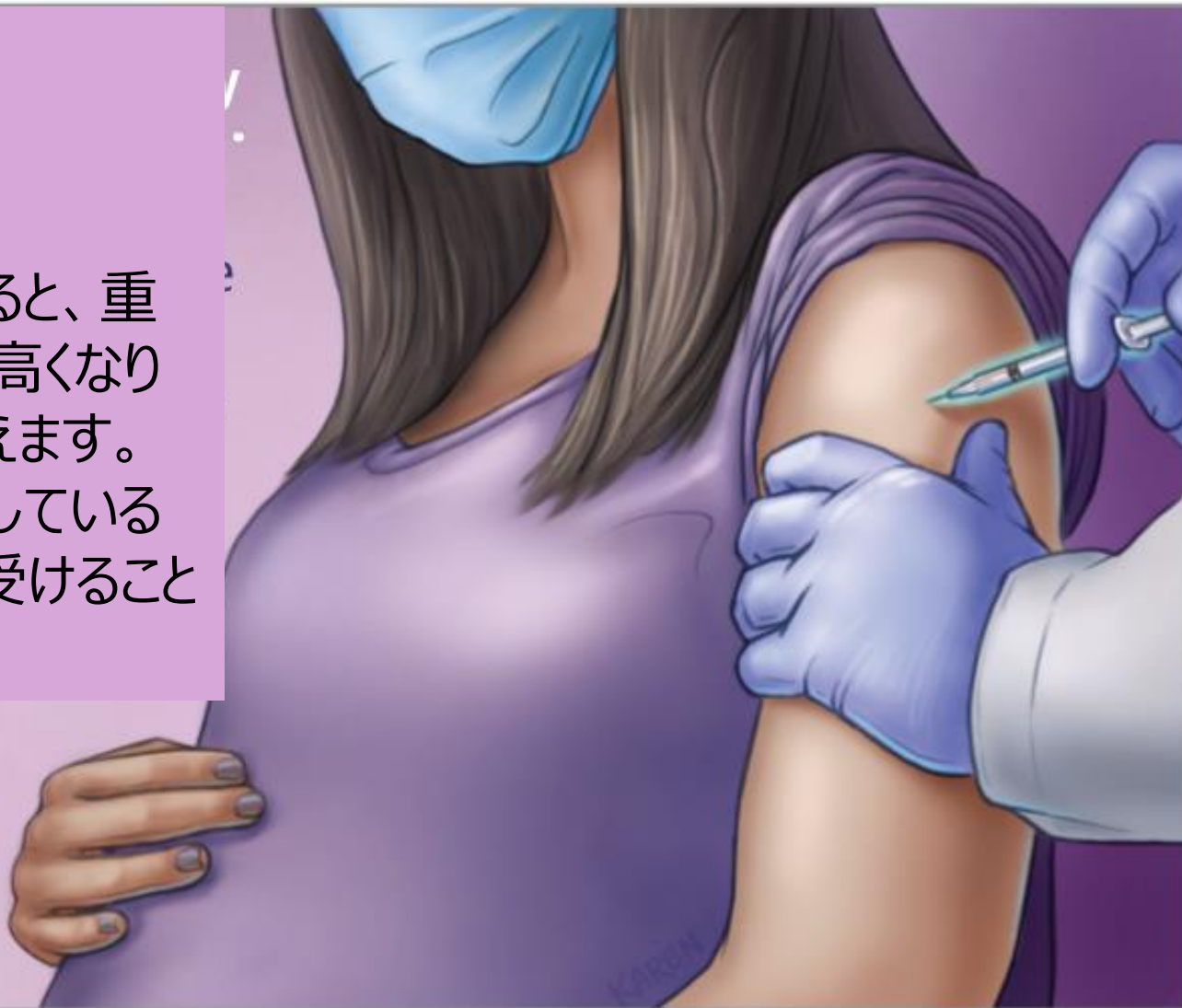
妊娠中あるいは妊娠を予定している方は、新型コロナワクチンを受けましょう、という呼びかけです。

JAMA Patient Page: 新型コロナワクチンと妊娠

Walter K. COVID-19 and Pregnancy. JAMA. 2021 Dec 10. doi: 10.1001/jama.2021.22679. Epub ahead of print. PMID: 34889956.

妊娠と新型コロナワクチン

妊娠中に新型コロナに感染すると、重症となり死亡するリスクがとて高くなります。早産と死産のリスクも増えます。妊娠中、あるいは妊娠を予定している方々は、新型コロナワクチンを受けることをお勧めします。



新型コロナと妊娠

妊娠中の方、あるいは妊娠を予定している方が新型コロナに感染すると、重症化するリスクが高まります。

CDCは、2020年1月22日から2021年11月29日までの間に米国では、148,327名の妊娠女性が新型コロナに感染し、241名が死亡したと報告しています。この期間に121,973名の妊娠女性が何らかの理由で病院に入院しましたが、そのうち20.6%が新型コロナ感染あるいは妊娠合併症での入院でした。

妊娠中に新型コロナに感染するとどうなりますか？

新型コロナに感染した妊娠女性は同年代の非妊娠女性よりもICU治療、人工呼吸器治療、ECMO治療を行う必要性が高まります。さらに死亡リスクも高くなります。高年齢で、肥満があり、高血圧や糖尿病などの基礎疾患を持つ妊娠女性は重症化しやすくなります。

胎児にはどのような影響がありますか？

妊娠中にコロナに感染すると、早産と死産が増えます。2020年3月から2021年9月までのデータによれば、新型コロナウイルスに感染した妊婦21,653名から273例（1.26%）の死産が発生しています。一方非感染妊婦の死産率は0.64%（1,227,981名中7881名）でした。

妊娠中に新型コロナワクチンを受けても大丈夫ですか？

新型コロナワクチンには生きたウイルスは含まれていないので、ワクチン接種で新型コロナが妊娠女性や胎児に感染することはありません。また、ワクチン接種によって不妊、流産、死産が増えたり、胎児や新生児に異常が出ることは見られていません。

妊娠中に新型コロナに感染すると重症化と死亡リスクが増えます。また早産と死産が増えます。これらを防ぐには、妊娠前にワクチンを接種しましょう。また妊娠のいずれの時期に接種しても大丈夫です。しかし、CDCの調査によれば、2021年11月27日現在、米国の18～49才の妊娠女性のうちワクチンを2回接種している割合は35%に過ぎません。

米国では、妊娠中あるいは妊娠予定の人々は3種類の新型コロナワクチンのどれかを接種することが承認されています。ただし18歳未満ではファイザービオンテックワクチンの接種だけが認可されています。

50歳未満の妊娠中、授乳中、妊娠予定の人々では、ヤンセンワクチン接種後、血小板減少を伴う血栓症が稀に発生することがありますのでご注意ください。

授乳中の新型コロナワクチン接種

授乳中の方も感染防止のためにワクチンを受けましょう。ファイザービオンテックワクチン、モデルナワクチン接種により、母乳に抗体が分泌されますので、赤ちゃんを新型コロナ感染から守るたすけになります。

妊娠中あるいは出産後のブースター接種

米国産科婦人科医会は、妊娠中あるいは出産から6週以内の人々がブースター接種（mRNAワクチンの3回目接種、ヤンセンワクチンの2回目接種）を受けることを推奨しています。